

第19回北海道こども木工作品コンクールの紹介

企業支援部 技術支援グループ 高山光子

林産試験場では(社)北海道林産技術普及協会と北海道木材青壮年団体連合会との共催で、「北海道こども木工作品コンクール」を平成5年から毎年開催しています。このコンクールは、日常あまり手にすることのない木工道具を使用し、想像力を生かして一つの作品に仕上げるといった体験を通して、子供たちの木材や樹木への興味を育み、木工技術の向上を図ることを目的としています。

北海道内全ての小中学校に応募を呼びかけ、木工工作個人の部、団体の部、レリーフ作品の部の各部門について作品を募集しています。なお、今年から木工工作個人の部については、より作品の内容に合った審査ができるように「造形的作品部門」と「実用的作品部門」の2部門に分けて作品を募集しています。

応募作品については、美術館や学校教育関係者などによる審査委員会では、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、特別賞を選考し、最優秀賞には知事賞を授与しています。

今年は全道の小中学校22校から230点の作品が寄せられ、9月13日に開催された審査委員で受賞作品が選ばれました。これらの受賞作品を中心に、今年のコンクールについて紹介します。

■ 木工工作個人の部 (造形的作品部門)

木工工作個人の部 (造形的作品部門)には11校から31作品が寄せられました。すべて小学生の作品で、虫や自然、家族の顔や動物、乗り物など様々なものを題材に、素材の持ち味を生かした創意あふれる作品が集まりました。

最優秀賞には旭川市立神楽小学校4年の青田智之さんによる「オオスズメバチの女王蜂」が選出されました。木の枝で作られた手のひらにのるほどの小さな作品ですが、脚の



「オオスズメバチの女王蜂」
旭川市立神楽小学校4年
青田智之

関節部分に細い材料の節の部分を使うなど細かいところまで観察して作られた作品です。審査員からも「小さいものは難しいが細かいところまで注意して制作している」「着眼点がよい」「あまりにも小さいがバランスがよい」など小ささに驚きながらも高い評価が集まりました。

優秀賞には、豆で作った小びとたちが楽しく遊ぶ様子をうまく表現した点や細かい作りが評価された「小びとのくらし」(旭川市立神居東小学校5年 多田愛彩さん)と、「技術的によく作られている」と評価された車輪やプロペラが回る「木の飛行機」(旭川市立緑新小学校6年 中村龍聖さん)が選ばれました。



「小びとのくらし」
旭川市立神居東小学校5年
多田愛彩



「木の飛行機」
旭川市立緑新小学校6年
中村龍聖

特別賞には木の円盤の顔に木の皮の髪の毛、松ぼっくりや枝、きのこなどを使って家族の顔を表現した「後藤家の顔」(新得町立富村牛小学校5年 後藤百葉さん)と木の円盤にあいた穴の部分をうまく使って立体的に表現した「鳥」(旭川市立神楽小学校4年 佐藤尚哉さん)、木の枝の体と円盤の顔に松ぼっくりやトマトの葉をはり付けた「木のライオン」(愛別町立愛別小学校2年 若林笑見さん)の3点が選ばれました。



「後藤家の顔」
新得町立富村牛小学校5年
後藤百葉



「鳥」
旭川市立神楽小学校4年
佐藤尚哉



「木のライオン」
愛別町立愛別小学校2年
若林笑見

■ 木工工作個人の部（実用的作品部門）

今年から木工工作のうち実用品として制作された作品はその実用上の機能や精度について評価ができるよう、造形的な作品とは別部門として募集しました。

初年度となる今年は6校から、本棚や巣箱、レターボックスなど普段の生活の中で使えるような20作品の応募がありました。

最優秀賞には札幌市立あいの里東中学校3年 山口空さんの「蜘蛛の巣の輪ゴムかけ」が選ばれました。

輪ゴムをかける突起が並んだいろいろな長さの棒を放射状に組み合わせ、いろいろな大きさの輪ゴムをかけられるようにした作品です。放射状の棒と輪ゴムが蜘蛛の巣のように見え、そこに蜘蛛が1匹ぶら下がっています。審査委員からは



「蜘蛛の巣の輪ゴムかけ」
札幌市立あいの里東中学校3年
山口 空

「実用性と造形性を合わせ持った今までにない作品」「今までにない発想と形の作品」など作品のアイデアが高く評価されました。

優秀賞には技術的なところが評価された「猫足のテーブル」（札幌市立あいの里東中学校3年 福井一樹さん）が選ばれました。



「猫足のテーブル」
札幌市立あいの里東中学校3年 福井一樹

特別賞には「鳥が止まりやすいように枝を付けたところに鳥への気持ちが伝わってくる」との評価を受けた「鳥の

巣箱」（登別市立青葉小学校4年 丸屋ちなつさん）と小学校6年生ながらしっかりとした作りと実用性が評価された「たな」（別海町立別海中央小学校6年 亀井捺代さん）が選ばれました。



「鳥の巣箱」
登別市立青葉小学校
4年 丸屋ちなつ



「たな」
別海町立別海中央
小学校6年 亀井捺代

■ 木工工作団体の部

団体の部には今年は5校から14作品の応募があり、従来の十数名で作り上げる大型の作品の他、数人で協力して制作した作品の応募がありました。

最優秀賞には新得町立富村牛中学校1～3年生4人による「大鷲」が選ばれました。樹皮や葉を使って羽根の色や質感を表現し、羽を広げ今にも羽ばたきそうな大鷲を見事に作り上げた作品で、「台にはり付けた小枝が風を感じるいい動きを出している」「羽根から尾にかけての作り方が実にうまい」「色の違う材料を組み合わせるなど材料の使い方がうまい」など、審査委員から高い評価を受けました。



「大鷲」
新得町立富村牛中学校1.2.3年
谷口 葵, 国定向日葵
飯山勲斗, 後藤南月

優秀賞には滝上町立濁川小学校2・3・5



「思い出いっぱいありがとう！！」
滝上町立濁川小学校2.3.5.6年
奥田達優, 中村雪乃, 平本未緒
高澤聡真, 奥田 覚, 高澤祐希
保科千尋

・6年による「思い出いっぱいありがとう!!」が選ばれました。ドングリで作ったこどもや動物たちが楽しく遊んでいる様子を表現した作品で、「みんなで作った様子がよくわかる楽しい作品」「良くできている」と評価されました。



「集うIII〜キノコムシたち〜」
当麻町立当麻中学校1.2.3年
一条真衣, 角井瑠那, 日下
和音, 工藤優菜, 小松 唯
佐藤美羽, 鷺見友愛, 内藤
里那, 大野まゆ, 鈴木美涼
石山優希, 内藤瑠依, 鈴木
智佳, 南間美苑, 小岩芽実
片山はるひ

特別賞には当麻町立当麻中学校1～3年による「集うIII〜キノコムシたち〜」が選ばれました。円柱と板で作られた木にいろいろな「キノコのムシ」たちが集まる様子を表現した作品で「精度が高く見た目がきれい」「きれいに仕上げられている」等の評価を受けました。

■ レリーフ作品の部

この部門は林産試験場で開発した「アート彫刻板」を使って作品を制作してもらいます。この彫刻板は、赤色の顔料を加えた接着剤で数枚の単板を貼り合わせた合板で、彫り方によって赤い接着層が様々な表情となって現れます。

今年は応募時に彫刻板の彫り方などを紹介したチラシを配布したためか昨年より応募数が増え、5校から165作品が集まりました。

最優秀賞には小樽市立若竹小学校6年の石部詩歩さんの「小樽運河」が選ばれました。彫り方による彫りあとの違いを用いて絵画的に表現した点や奥行きのある立体的な構図などに高い評価が集まりました。

優秀賞には彫刻板の層による縞模様を効果的に使い羊の毛のふかふか感を表現した「ひ



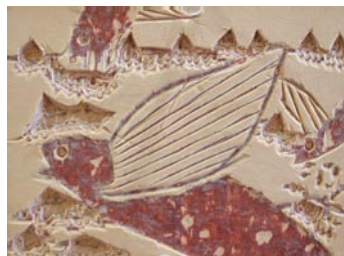
「小樽運河」
小樽市立若竹小学校6年
石部詩歩



「ひつじ」
登別市立幌別中学校3年
窪田結衣

つじ」(登別市立幌別中学校3年 窪田結衣さん)が選ばれ、立体感やデザインが評価されました。

特別賞には波や水しぶきの表現が評価された「トビウオのジャンプ」(小樽市立若竹小学校6年 渡邊秀平さん)と彫刻板の層を生かして立体感をうまく表現した「カエデの葉」(当麻町立当麻中学校1年 工藤優菜さん), 3重4重に彫り込んで立体感を表現し「絵画的で完成度が高い」と評価された「貝」(当麻町立当麻中学校3年 石山優希さん)の3点が選ばれました。



「トビウオのジャンプ」
小樽市立若竹小学校6年
渡邊秀平



「カエデの葉」
当麻町立当麻中学校1年
工藤優菜



「貝」
当麻町立当麻中学校3年
石山優希

■ コンクールを終えて

今年は木工工作個人の部を造形的作品部門と実用的作品部門の2部門に分けて募集したところ、素材の持ち味を生かした創造的で造形的な作品から、加工技術の優れた実用的な作品まで幅広い内容の作品が集まりました。初参加の学校もあり学校数、作品数とも昨年より若干ですが増加しています。今後もより多くの学校に参加してもらえよう、募集方法を工夫しながらより内容豊かなコンクールにしていきたいと考えています。また、このコンクールをとおして、より多くの子どもたちに創造する楽しさや自分の手で作品に仕上げていくおもしろさを経験してもらい、木材に触れ、木や自然とのつながりを感じることができる機会となるよう、取り組みを続けていきたいと考えています。